

暴走するゴミ処理場新規建設に疑義あり！ 長寿命化が経済的にも有利

坪井市長に再考を促すも拒否

かすみがうら市、石岡市、小美玉市、茨城町は霞台厚生施設組合（以下、組合）を組織し、新ゴミ処理場建設計画を進めています。このエリアには現在、新治広域クリーンセンター、霞台環境センター、茨城美野里クリーンセンターの3施設が稼働しており、そのうち茨城美野里クリーンセンターが約30年稼働しているのに対し、新治広

なぜ調査しないのか

平成29年第一回かすみがうら市議会定例会が3月22日に終了しました。私は一般質問で、霞台厚生施設組合が進められているゴミ処理場の新規建設計画に対し、「既存2施設を長寿命化したほうが経済的にも有利である可能性が強い」とする資料を提出し、強い提言しました。

つばさ通信

第9号

かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

域クリーンセンターと霞台環境センターは21年しか稼働しておらず、この2施設はまだまだ十分に使えます。

私はこれまで何度も、「新ゴミ処理場建設は、既存施設があと何年使えるかを調査してから比較検討すべき」と主張してきました。

ところが坪井市長は、「総合的に判断した」という曖昧な答弁に終始し、既存施設の調査すら行わないと明言してきました。

また組合もこれまで、「既存3施設は老朽化しており一つに統合すれば経済的にも有利」という説明を市民に示してきましたが、明確な根拠は示していません。

長寿命化が経済的

そこで私は、組合がこれまで発表してきた数字を基に、新規建設と長寿命化、どちらが経済的に有利かを試算しました（下表）。

設を長寿命化すると、年間コストが1・7億円も経済的である可能性が判明したのです。

しかも、新規建設費はまだまだ膨らむ可能性が高く、一方、既存施設の活用では、場合によっては長寿命化工事そのものが不要である可能性もあるのです。

なぜなら、既存施設のうち最も古い茨城美野里クリーンセンターは、長寿命化工事なしで35年も使用することが確定しているからです。

この試算を基に私は「改めて組合で、長寿命化について協議すべき」と再考を求めましたが、坪井市長は、「すでに入札の準備に入っている段階なので」との理由で、この提案を拒否しました。

市民への説明責任を果たさず「最小の経費で最大の効果を上げる」ことを求める地方自治法をも踏みじる行為で、決して許されるものではありません。

ゴミ処理場の年間コスト比較（試算）

新規建設
(215t)
建設費195億円

自治体実質負担額
(交付金活用)
26.4億円

1年間換算（25年）

1.1億円
(26.4億円÷25年)

年間運営費

13億円

年間コスト

14.1億円

2施設長寿命化
(246t)
工事費50億円

自治体実質負担額
(交付金・地方債活用)
21.3億円

1年間換算（15年）

1.4億円
(21.3億円÷15年)

年間運営費

11億円

年間コスト

12.4億円

※長寿命化は既存3施設の内、霞台環境センターと新治クリーンセンターをトン単価2000万円で行った場合。※自治体負担額は、新規建設の場合は循環型社会形成推進交付金と震災復興特別交付税を活用。長寿命化の場合は循環型社会形成推進交付金と地方債を活用。※年間運営費は、新規建設では霞台厚生施設組合の資料による。長寿命化では2施設の平成26年度決算の合計。



千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！

『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。翼に偏りがあっては飛べません。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、明るい未来が切り拓かれていくと確信するのです。



霞ヶ浦南小学校プール水温問題 「今期は運用面で対応」と答弁

日陰が本当の原因では？

霞ヶ浦南中学校のプールの水温が低く、多くの子どもたちが寒さを訴えていた問題。保護者を中心とした市民から改善を要求する請願書が議会に提出され、昨年12月に全会一致で採択されました。

これを受け教育委員会では、その原因究明と対策を検討し、今定例会で私の一般質問に答える形で、その方針を示しました。

寒さの原因は、①自動給水装置が授業中に作動したため、急に冷たい水が入った、②特

にバス移動が必要な霞ヶ浦北小学校の児童に関して、1回に入る時間が長すぎた、③天候があまり良くなかった、の3点を上げました。

そして対策として、①自動給水装置は作動させず、子どもたちが入っていない時間に補水する、②1回に入る時間を短くする、③天候などの状況を見極め、場合によっては授業を延期する、④シーズン初めの水張り時期を早める、⑤プールサイドに暖房器具を設置する、の5点を上げました。

しかし私は、「本当の原因は、プールが屋根で日陰になっ

ていることではないか」と指摘し、設計した建築士の見解を問いました。教育委員会では建築士には未確認のことでした。

ごく一般的な運用をしたにもかかわらず、こうした事態が発生したわけですから、構造的な問題が大きいことは間違いありません。

なぜ、建築士などの専門家の聞き取りを行って、抜本的な対策を検討しないのでしょうか。

今期、本当に大丈夫？

霞ヶ浦南小学校のプールは、屋根付きの屋内

プールですが温水装置がありません。水温と気温の合計が50度以上という基準をクリアしても、実際には唇が青くなる子どもが続出し、授業を放棄する児童も多数出たのです。

教育委員会では、とありあえず新年度は、先に示したような運用面での対応で済ませようとしています。しかし、それで本当に大丈夫でしょうか。

屋根を透過性の材質に変える、循環装置の経路にボイラーを設置するなど、水温を高める対策を取るべきではないでしょうか。

さらにその先、温水プールとして通年利用し、一般市民に開放するなどの新たな施策に繋げることも検討すべきだと思っております。

逆西地区の 公共施設強化を

逆西地区には働く女性の家、勤労青少年ホーム、やまゆり館など、複数の公共施設がありますが、会議室や運動室、トレーニング施設などが重複していて非効率な面があります。

そこでこれら施設の機能を整理・統合・強化すれば、新たな機能、例えば下中地区公民館の拠点や、充実した図書スペースなどを生み出すことが可能となるかもしれません。

子育て世帯の増加と高齢化が同時進行するこの地区を活性化するために、ぜひとも検討していただきたいと思っております。

明日への思い

東京都の築地市場移転問題が連日テレビで報道されていると思えば、今度には森友学園への国有地売却と学校開設の認可問題が加わり、政治と行政に対する不信感が膨れ上がるこの頃です。

原因はそれぞれでしょうが、共通するキーワードは『水面下』です。国民・都民の知らぬ間に、特例的行政が水面下で行われていたものが、水上に浮かび上がって大騒ぎとなっているのです。

かすみがうら市でも、何の精査もせずにゴミ処理場の新規建設を強引に進める行政が進められており、その決定過程はまさに『水面下』です。

暗闇はいけません。何をしているか、市民にはわからないのですから。

TOPICS

議会の一般質問に一問一答方式の導入を

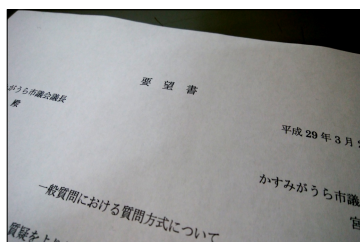
議会最終日の3月22日、中根光男議長に、一通の要望書を提出しました。

内容は、議会の一般質問の方式を、現在の一括質問方式に加え、一問一答方式も選択できるよう要望したものです。

一括質問方式とは、議員が登壇し、予

定している質問を一気に述べ、次に執行部が一人づつ登壇して質問に答えていく方式。答弁者全員が登壇するため時間のロスがあり、さらに問題なのは、特別職の市長、教育長、そして担当部長の順番で答弁する慣例があり、議員の質問順序とは違う順番で答弁が返ってくるため、非常にわかりにくいのです。

その点一問一答方式は、いちいち登壇の必要もなく、議員は質問者席でひとつ質問をし、それに担当部長が自席で答弁する、これの繰り返しのため、一般の会話に近く、わかりやすいのです。傍聴者や中継を見ている市民にも、大いに有益なはず。議会改革の第一歩として、ぜひ実現させたいと思います。



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/